

高等学校学習指導要領との関連性や接続性

情報工学部

情報工学部での学修と、高等学校における教科等（現行の学習指導要領による標準的な教科等と科目名称を記しています）との関連性や接続性について以下に示します。

なお、普通科でも特色あるコースやクラスなどで学習している場合、専門教育を主とする学科や総合学科などの場合、現行の高校3年生とは異なる学習指導要領を適用している場合などにおいては、それら学習内容を下表に概ね当てはめながら考察してください。

学習指導要領 令和4(2022)年度 高校3年生の場合		入学前に学習しておくことが望ましい内容／教科等との関連性や接続性
教科等	科目	
国語	国語総合 国語表現 現代文A 現代文B 古典A 古典B	情報工学部の学修では、様々な文献や資料を読み解いたり、レポートや論文を作成する機会も多いため、「国語」教科は、そうした機会においても有効な力になります。 そのため、必修科目「国語総合」のみならず、複数学年にわたり <b>継続的に複数の科目を履修</b> していることが望まれます。
地理歴史	世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B	情報工学部の学修では、理工系の専門分野のみならず、豊かな教養も身につけていきます。 そのため、「地理歴史」教科においては、複数学年にわたり <b>継続的に複数の科目を履修</b> し、社会や歴史に関する関心を高めておくことが望まれます。
公民	現代社会 倫理 政治・経済	情報工学部の学修では、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果や技術者としての倫理、社会に対して負っている責任に関する理解が必要になります。 そのため、「公民」教科の <b>学びは大切</b> であり、履修した科目については内容を深く理解していることが望まれます。
数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 数学B 数学活用	情報工学部の学修では、情報工学の基礎となる「微分積分学」や、「線形代数学」「基礎確率統計」などを必修科目として学びます。 これらの学修のためにも、「数学」教科はとて重要であり、「 <b>数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」のすべてを履修</b> していることが望まれます。
理科	科学と人間生活 物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 地学 理科課題研究	情報工学部の学修では、科学に関する全般的な知識が求められます。 そうした学修の基礎および応用として、物理・化学・生物の科目を講義や実験として必修または選択科目として履修します。 これらの学修のためにも、「理科」教科はとて重要であり、基礎科目だけでなく「 <b>物理」「化学」「生物」のうちいずれかを履修</b> し、深く理解していることが望まれます。
保健体育	体育 保健	情報工学部の学修を進めるうえでは、「保健体育」教科を通じて、心と体を一体としてとらえ、自己の状況に応じて体力の向上を図り、 <b>健康を適切に管理する資質や能力</b> を身につけていることが望まれます。
芸術	音楽Ⅰ～Ⅲ 美術Ⅰ～Ⅲ 工芸Ⅰ～Ⅲ 書道Ⅰ～Ⅲ	情報工学部の学修を進めるうえでは、「芸術」教科を通じて、芸術文化についての理解を深めるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、 <b>情報工学部の学修全般にも有効な資質や能力</b> として身につけていることが望まれます。
外国語	コミュニケーション英語基礎 コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語会話	情報工学部の学修では、外国語科目として英語を中心に8単位を修得します。また、外国語科目を12単位修得する「国際コース」も設置しています。 これらの学修のためにも、「外国語」教科の、特に「英語」は重要であり、必修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」のみならず、 <b>3学年にわたり継続的に複数の科目を履修</b> していることが望まれます。
家庭	家庭基礎 家庭総合 生活デザイン	情報工学部の学修を進めるうえでは、「家庭」教科を通じて、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を体得し、 <b>情報工学部の学修全般にも有効な資質や能力</b> として身につけていることが望まれます。
情報	社会と情報 情報の科学	情報工学部の学修では、情報に関する多数の専門科目を学びます。 そのため、「 <b>情報</b> 」教科は <b>とて重要</b> であり、科目の履修とともに情報技術への関心を高めておくことが望まれます。 なお、「社会と情報」は情報工学部の基礎科目に、「情報の科学」は情報工学部の専門科目に接続する内容です。
総合的な学習の時間		情報工学部の学修を進めるうえでは、「総合的な学習の時間」を通じて、横断的・総合的な学習や探究的な学習を経験することで、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、協働的な態度とともに、 <b>よりよく問題を解決する資質や能力</b> を身につけていることが望まれます。